

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・伊藤	写真・後藤
山行番.	NO. 2009		
日 時	2023 年 02 月 25 日 (土) 曇～霰～大雪		
山 域	山中湖・石割山 (1412m)		
コース	「石割の湯」8:20—山中湖8:42—湖北・大平山登山口9:33—大平山10:32—米山さん宅11:02—石割山12:01～45—石割神社13:05—登山口13:33—石割の湯14:00～15:45—長泉(反省会)17:00		
標高差	上り 湖北・大平山登山口約980m～大平山1295m＝約315m+30m 米山宅コル約1220n～石割山1412m＝約192m 下り 石割山1412m～石割の湯約1015m＝397m		
藪漕度	上り＝石割山西に少し		
難易度	非常に困難	困難	やや困難 レ普通 やや易しい 易しい
長い長い階段に参った			
参加者	後藤、加藤、伊藤、勝又、井上、星、斎藤＝7名		

長泉を朝7:00出発。車窓から雪化粧した富士山に感動しつつ、石割の湯に到着しました。総勢7人。まず、山中湖の白鳥たちに挨拶して、湖畔を三分の二程歩いてから、いよいよ大平山へ登山開始です。



ハクちゃん

ハクちゃんは、甘えん坊

残雪を踏みしめながら慎重にかつ、楽しみながら山頂へ。ここで富士山は下半分しか見えず、これからの予報を知らされた感じがしました。

新雪が積もった椅子に「レイホー」と加藤さんがサインをつけた。これも楽しいよね。次は平尾山です。本来なら、気分良く歩ける縦走路でしょうが、あいにく視界は悪くなって来てしまいました。途中、スキーの知人だという方の別荘のすぐ裏を通りかかり、加藤さんをご挨拶に伺いました。

何と「98歳」で元気になっているとのこと。素晴らしいですね。その方も、突然の訪問



湖北登山口



大平山

サイン



米山和男さん (2020/6/16)

に驚いたけれど、嬉しかったでしょうね。さすが加藤さんは良いことをするな。更に整備された縦走路を歩き、平尾山は何気なく通り過ぎました。

いよいよ、石割山にひたすら向かいます。頂上直下は急登で滑りやすく更に緊張です。



長い階段



美味しいイワシ焼き

着きました。山頂です。ですが、富士山はほとんど見えません。でも、風が無かったので、普通に昼食出来ました。そこに犬と子供を連れ家族が登って来て、少しいて、そのまま下って行きました。

昼食は早々に終わり。そこにあった標識に目が止まり話題となりました。「標識は正確さが必要だね」と思いました。

さあ、下山です。いや～、この道は、来た時の道に比べ泥道でした。先ほどの子供さんの服が、泥だらけが納得出来ました。

やっと、石割山の由来なる神社に着き、大きな石というより、岩があることが分かりま

した。その岩の隙間を通過して3回まわると、御利益があるということで、皆で一周しました。代表して井上さんが3回潜り、「世界平和・(安全登山)・(自然保護)」を願ってくれました。ありがとね。

この下は、400段の階段を下ります。所々、凍っているのが緊張です。実際は、403段あったようです。やれやれと思っていたら、「アラレ」が降って来ました。まるで、発泡スチロールの粉まみれのお中を歩いているようで、楽しく初体験のことでした。

石割の湯に着くころは、「アラレ」が「ミズレ」に変わり、湯上りした時、「ミズレ」が静かに降る様子が見え、何か落ち着く雰囲気でした。

雪の積もった道路を帰路に向かいます。途中、タイヤの検問や何台もの除雪車に遭って、雪国の生活を垣間見たような気がしました。

そんな状況でも、ビクともしない加藤さんの運転で無事、長泉着に着きました。今回は、盛り沢山の初体験が多い一日でした。皆さん、有難うございました。

(99%原文のまま転記しました)



石割神社の大岩



アラレ

その他の記述 (ごとう)

1. 「石割の湯」は、イヤな顔一つせず、駐車OKだった。
2. 山中湖の白鳥は、最初一羽だったが、加藤さんの行動食の「アンパン」釣られて、もう二羽何

処からとなく現れた。カモも沢山集まった。

3. 昔は山中湖・平野で「天然スケート」と楽しんだが、今回は全く凍結なし。大平山登山口の湖北まで湖畔道は長い。大平山で「アラレ」が降って来た。
4. 「芙蓉台別荘地」最上部に住む方は「米山和男」さん。2020年6月16日、後藤・加藤・星で「ソバ持参」で訪ねた。20年程前、富士山スキーで知り合った。
5. 山頂で出会った方は、夫婦・親?・子供2名。韓国人?子供は英語?凍った滑りやすい、我々が上った路を下ろうとしていたので、「ダメ・キケン」と止めた。
6. 昼食事、焼いて貰った「イワシ」が美味しかった。(念のため、私はノンビアです)
7. イワシの食べ残しや、お茶カスを山頂に捨てた会員がいたが、労山の「自然保護精神」に反する行為。猛省し、今後、絶対止めて欲しい。
8. 石割山の標識は、「御正体山 (みしょうたいさん)」のルビが「ごしょうたいさん」だった。こんな看板が訂正なしで存在は世も末だ。
9. 大失敗。どうもオカシイと思っていましたが、石割山から直接、石割の湯に下る道はあった。長い階段の入り口を階段でなく、左の道を辿れば正解でした。山と高原地図にもしっかり表記がある。地図を持っていたのだから、他言に惑わされずに確認すべきでした。
10. やっぱり、スタッドレス・四駆は安心だ。



インチキ道標



大雪だった



石割山山頂



可愛いね